

問一 「トロンボーンを吹く女子学生」という題名から、筆者は女性が金管楽器を吹くことをどのように感じていると推測できるか。また、そう推測できるのはなぜか。

解答 金管楽器を女子学生が演奏することに違和感を感じている。なぜなら、女子学生も金管楽器を演奏するのが普通のことであるなら、わざわざ『女子』学生』とは書かないはずだから。

問二 P.20,L7「それに対し」の「それ」とは何を指すか。

解答 トランペットやトロンボーンは男性が吹くものと（相場が）決まっていたこと。

問三 P.20,L8「誰もが奇異な感覚を抱いた」のはなぜか。

解答 男性は普通ハープを弾くものではないと思っっているから。

解説 「奇異な感覚」は自分が当たり前と思っっていることに反することに對して抱くもの。よってその原因を問われたら、奇異な感覚を感じたことと反対のことを思っっているからと考えられる。

問四 P.21,L2,L4「楽器にまつわるこのようなイメージ」とはどのようなイメージか。

解答 金管楽器は男性が、ピアノやハープは女性が演奏するものというように、楽器に男女の性差が結びついているイメージ。

解説 P.20,L9「このように楽器のイメージには男女の性差が分かちがたく結びついており」をもちいて、「楽器のイメージ」を説明する。＊破線部・傍線部は解答との対応関係を示す。

問五 P.21,L8「このような変化」とはどのような変化か。

解答 ハープの弾き手の変化のように、楽器にまつわるイメージが、十八世紀から十九世紀初頭にかけて歴史的・社会的に形成されてきたこと。

解説 「このような」は直接には「ハープの弾き手の変化の例」を指すが、ここではその例が何を意味するか一般化することが必要。理由はこの後に続く文章にブルジョワジーの家庭では女子にピアノを習わせることが流行したこととの背景についての説明があるので、ハープの弾き手の変化に限定できないから。

問六 P.22,L10「ピアノという楽器と女性との結びつきの背景にはそのような『良妻賢母』イデオロギーがあった」とあるが、『良妻賢母』イデオロギー」とは何を指すか。文中から抜き出しなさい。

解答 女性は結婚したら家庭での音楽実践の中心という役割を演じ、教養ある家庭を築き上げてゆく責務があるという思想。

問七 P.22,L14「金管楽器のようなものは『女性らしからぬ』楽器とみなされた」のはなぜだと考えられるか。わかりやすく説明しなさい。

解答 頬を膨らませ、大きな音を力一杯吹く様子などが良家の子女にはふさわしくないとされたから。設問箇所の直前に「他方」とある事に注目する。金管楽器は、良妻賢母イデオロギーの広がり背景とする「お嬢様イメージ」に合わないものである、と見なされていたと考えられる。

問八 P.23,L2「そのこと」とは何を指すか。

解答 良妻賢母イデオロギーの解体

問九 P.23,L5「ハの問題」とは何を指すか。

解答

十九世紀に良妻賢母思想が広がり、楽器のイメージに男女の性差が分かちがたく結びついてきたことと、それらが近年崩壊してきていること。

解説

「この問題」の前に「いずれにせよ」とあるので、「いずれ（||どちら）」の指す内容が答えである。

問十

この段落で述べられている結論を文中の語句を用いて簡潔に示しなさい。

解答

楽器にまつわるイメージのように一見自然に思えるわれわれの感覚（ジェンダー）もまた、歴史的・社会的状況の中で形成され内面化されて、今日まで生き続けてきたものにほかならない。

解説

「・・・にほかならない。」という表現は「・・・である」をさらに強調した表現。強調表現が用いられている箇所こそ筆者の主張したいこと。「ピアノ」「金管楽器」のイメージ（感覚）とそれがわれわれに刻み込まれ内面化した十九世紀の社会状況はジェンダーの問題を語るための事例であるので、具体的には書かない。